

葛城の道 神々の里

名柄



写真加工：米田 弘

まちづくりマップ

明日に継ぐ、身近な文化を伝える試み

吐田郷(はんだごう)

1956年、葛城村との合併で葛上村となるまでは、御所市の中西部、金剛・葛城山のふもとに広がる九つの集落は、南葛城郡吐田郷村でした。吐田郷は、日本神話の舞台として奈良でも最も古い歴史をもつ地域です。また、江戸時代には宿場町として栄え、昭和初期まで約80軒の商店が吐田郷の名柄に集中していました。

地元の小中学校との交流

「吐田郷」という三文字を何とか残したい。」そんな思いから、吐田郷の文化を孫の世代に引き継ごうと、地元の小中学校との交流を進めています。



長柄神社を見学をしている名柄小学校3年生



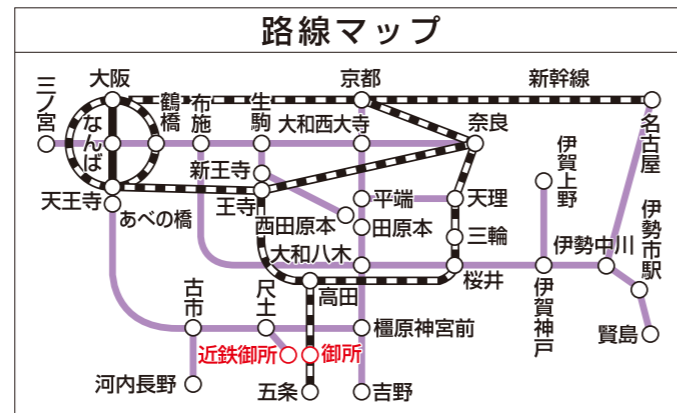
はんだ米を植えている名柄小学校5年生

民謡・吐田郷音頭

- 一、アアー
金剛背山から吐田郷を見ればヨイヨイ
稲穂黄金に波を打つ波を打つ
吐田郷よい村よい所ヨイヨイイトナー
- 一、アアー
大和に名所が数々あれどヨイヨイ
吐田郷の里にはかなわない、かなうまい
吐田郷よい村よい所ヨイヨイイトナー



民謡・吐田郷音頭の歌碑 (名柄小学校内)



協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、マップづくりを行っています。平成21年度は次の3地区で作成しました。



- このマップは、「吐田郷地区の文化を守る会」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(奈良県)」が協働で作成しました。
- 平成22年(2010年)3月発行(平成27年3月改訂)
- 問い合わせ先:
吐田郷地区の文化を守る会 (TEL 0745-66-0016)
奈良県地域デザイン推進課 (TEL 0742-27-7515)

名柄遺跡

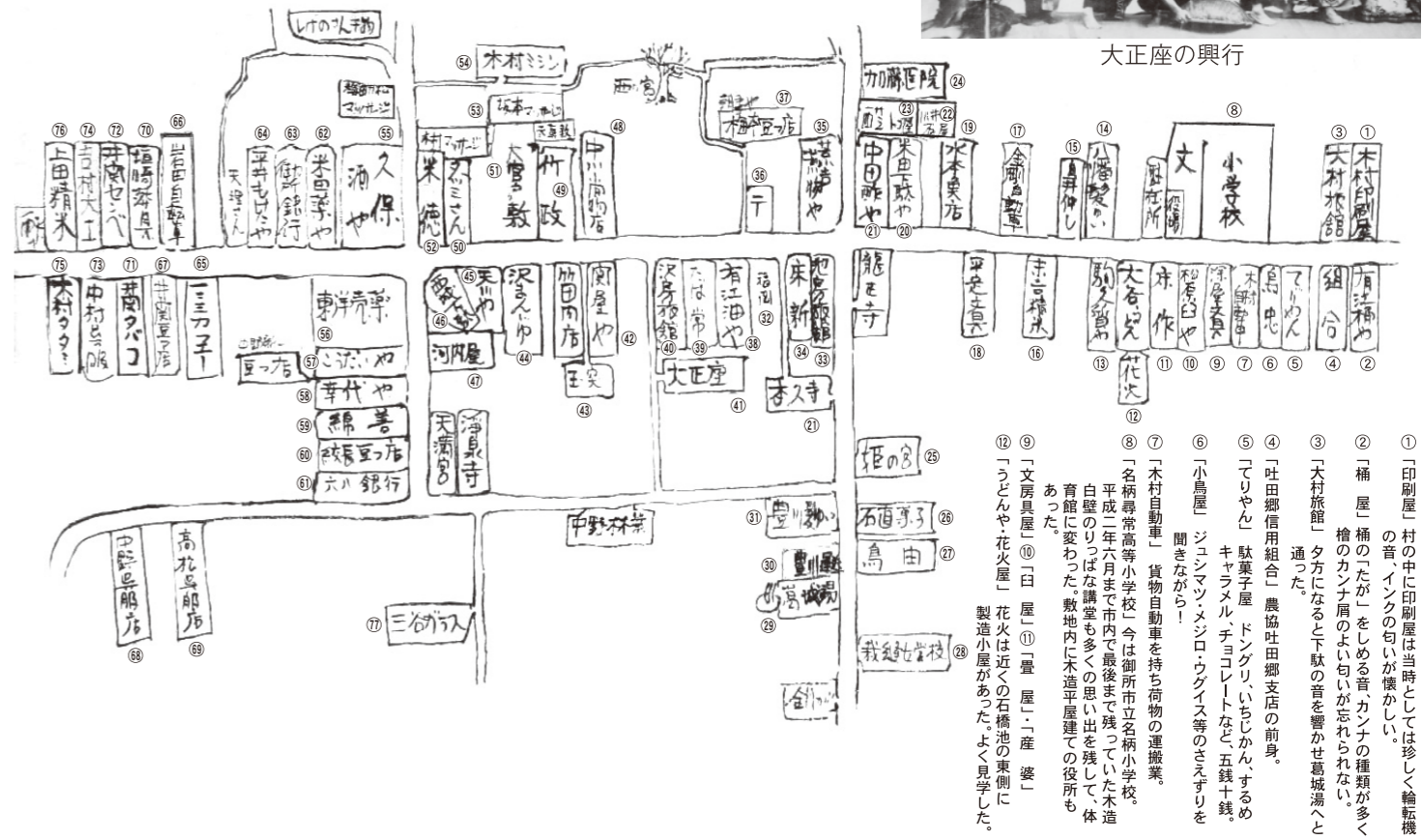
1918年、名柄に新しく溜池をつくる際に、銅鐸と銅鏡が偶然出土しました。銅鐸・銅鏡ともに、弥生時代中頃のものと考えられています。銅鐸と銅鏡と一緒に出土することは大変珍しく、一躍注目を浴びました。

また、名柄小学校内の発掘調査では、古墳時代の豪族が住んだと考えられる居館跡も見つかっています。



昭和初期の名柄商店通り

この道筋は、別名・高野街道、一言主神社道とも言われ、昭和初期には、商店が約80軒ありました。お菓子屋の隣に下駄屋があり、そして荒物屋、饅頭屋、魚屋、八百屋、酒屋、文房具屋などがずらりと並び、欲しい物がすぐに手に入りました。娯楽としては、大正座での映画・芝居・浪曲の興行や月に1回、露天商が並ぶ月並み市がありました。



- 「印刷屋」村の中に印刷屋は当時としては珍しく輪転機の音、ノックの匂いが懐かしい。
- 「桶屋」桶の「たが」をしめる音、カンナの種類の多く槍のカナノ用のよい匂いが忘れられない。
- 「大村旅館」夕方になると下駄の音を響かせ葛城湯へと通った。
- 「吐田郷信用組合」農協吐田郷支店の前身。
- 「てりやん」駄菓子屋、トングリ、いちじかん、すめ、キヤメル、チョコレートなど、五銭十銭。
- 「小鳥屋」ジュンマンメシロウグイス等のさえずりを聞きながら!
- 「木村自動車」貨物自動車を持ち荷物の運搬業。平成二年六月まで市内で最後まで残っていた木造白壁のりばな講堂も多くの思い出を残していた木造育館に変わった。敷地内に木造平屋建ての役所もあった。
- 「文房具屋」⑩「日屋」⑪「畳屋」⑫「産婆」⑬「うどんや・花火屋」花火は近くの石橋池の東側に製造小屋があった。よく見学した。
- 「葛城湯」銭湯が珍しく子供どうしよく行き、湯の掛け合いが楽しかった。
- 「豊川運送店」と「髪結い」⑭「福」⑮「池原旅館」
- 「床」⑯「三代続いた床屋さん」お世話になっている。
- 「荒吉荒物屋」今は山麓線に移転。建物は昔のまま。
- 「朝妻屋」梅本豆腐店、今は西の方に移転。
- 「有江油屋」なたね油の製造。大きなかめ・釜。今も残っている。
- 「たばこ」饅頭製造、オヨネ餅は有名だった。
- 「澤」料理旅館、井物、うどんもある飲食店。
- 「大正座」劇場映画館(芝居)活動写真(浪曲など) ※御所市内には、寿座、豊年座があった。
- 「閑屋」酒、醤油、梅から升、マヌスに取りはかり売り。
- 「竹田肉屋」牛肉、猪肉の販売、猪が天井から吊っていた。
- 「澤・南店」饅頭の製造、あん餅は有名。
- 「天川屋」荒物屋の販売、⑯「西城下駄屋」
- 「河内屋」子供に人気の当てもお菓子の販売。
- 「中川小間物屋」
- 「竹」政「八百屋」魚屋、今は国道二十四号線に移転。
- 「タツミさん」提灯屋、⑰「中村代官屋敷」
- 「木村ミシン店」⑱「久保酒店」現在の葛城酒造。
- 「東洋売業」製菓、日用雑貨。景品の紙風船が人気。
- 「綿」善「布団の販売、綿の打ち直し」。
- 「絞」善「布団の販売、綿の打ち直し」。
- 「六八銀行」明治三十年から昭和初期までの場所にあった。
- 「御所銀行」後の南都銀行名柄支店。現在は他に移転。
- 「平井もけたや」荒物用品の販売。
- 「二三(ひふみ)カフェ」お酒を飲まず店。
- 「若田自転車店」⑲「井関豆店」⑳「中野呉服店」
- 「高松呉服店」㉑「垣崎呉服店」葬式用品の販売。
- 「井関タバコ店」㉒「井関せんべい店」香りたてたよう。
- 「中村呉服店」㉓「吉村大工店」㉔「木村畳店」
- 「上田精米店」酢も販売、㉕「三谷ガラス店」

河内と水争いの歴史、水で結ばれた吐田郷、清水で育まれた「はんだ米」

大和と河内の国境にある水越峠から流れる水越川の水は、吐田郷の村々の田畑を潤し、今も人々の生活を支えています。

古くから、この水を巡り、河内との水争いが繰り返された歴史が、この地域に残されています。

この良質の水と砂質壤土に育まれた「はんだ米」は、宮中に献上された歴史もあり、伝統のあるおいしいお米です。現在も、農業をあまり使用せず、安全なはんだ米づくりが続けられています。このはんだ米は硬質米で、酒づくりに重宝にされていますが、炊きたてのご飯はまた格別で冷めてもおいしいお米として知られています。



おかずのいらない「はんだ米」。冷めたおにぎりに、本当のはんだ米の味です。



大正座の興行

まちづくりマップ

ながら 神々の里 名柄



①お伊勢参りの灯籠
南町の大神宮として昔から親しまれている。



②久保家(葛城酒造)
宇陀市大宇陀区の久保本家(元禄年間創業)より明治20年に当地に分家。油屋だった今の建物を買い取った。



③中村家(国重要文化財)
旧家が多い名柄で最も代表的な建物で、かつて代官屋敷であった中村家。慶長年間(1596~1615)建立。切妻造段違、本瓦葺で、農家に近い町家形式。入口手前には、手押し消火ポンプが吊り下がっている。



④本池口家
江戸中期の建物で、元国務大臣堺屋太一氏の実家。先祖は堺の両替商で、この名柄で木綿と菜種油の仲買を営んでいた。



⑤祇園社のケヤキ
住民の守り神である祇園社にあるケヤキの巨木。昭和12年頃の落雷で根元が大きくえぐられて焦げた跡が残っている。



⑥旧名柄郵便局
明治35年郵便受取所開始。昭和50年に移転したが、建物は当時のままであり、電話交換台も残っている。



⑦本久寺
日蓮宗で、本尊は南無妙法蓮華經の曼荼羅である。天正8年(1580)、日蓮上人により建てられたとされる。水越川の開拓者上田角之進に対する報恩と五穀豊穡を祈願する行事として毎年7月18日に角之進祭として法要が行われている。



⑧長柄神社
県重要文化財。延喜式内社で、祭神は下照姫命とされ、地元では姫の宮と親しまれている。日本書紀によると、天武9年(680)9月9日に天武天皇が境内で流鏝馬(やぶさめ)を行ったと伝えられる。本殿のひさしには、泥絵の具で勇壮な龍が描かれている。



⑨龍正寺
浄土宗知恩院末で、藤原期の阿彌陀如来立像(国重要文化財)が本尊。享保3年(1530)領主吐田越前守龍正公が、黒張の地に菩提寺として建立。天正年間(1573~1593)に現在地に移築。現在の本堂は元禄9年(1696)に再建。庫裡は天保14年(1843)に金剛山中の朝原寺の堂宇の一部を移築したもの。また境内には、勤皇の志士、六物空満(ろくもつくまん)善師(明治政府から正五位を授与)の墓石がある。



⑩末吉家と巨木
大和屋根、高塀作り、母屋は江戸時代中期の建物で、末吉家は大庄屋を務めていた。庭には、樹齢800年とも言われるケヤキ2本とクスノキ1本が植えられている。屋敷の北側には石橋池という池があり、今もきれいな水を湛えている。庭の西側には、別名「ハガキの木」と呼ばれる「多羅葉(たらよう)」の木も植えられている。



⑪石橋
川幅は2mもなく、今では上に舗装もされており、普段は橋があるとは感じないが、明治の古図には石橋池が表記されており、その以前からこの石橋があったと推測される。



⑫名柄小学校
明治7年創立。平成元年に校舎を改築する際、校庭から、方型の竪穴住居や石垣を伴う濠の一部が見つかった。校庭の一角には、水越水論の功労者の一人、上田角之進の顕彰碑が建っている。

拡大



< 広域地図 >



⑬葛木坐一言主神社
葛城の大神。願い事を一言だけ聞いてくれるという神。各地の一言主大神を祭神とする神社の総本社。また、境内には推定樹齢1200年の大イチョウや土蜘蛛一族を封じ込めたと言われる蜘蛛塚などもある。